



令和 5 年度 施策評価表

施策	0503 医療体制の充実	施策担当部	福祉保健部	部長	吉村 武史
		施策担当課	国保けんこう課	課長	前川 靖彦
施策の方針	救急医療体制の充実を図るとともに、医療機関との連携を強化する。また、地域の中核病院である市民病院について、ニーズに沿った医療サービスの向上及び提供に努める。				
関連するSDGsのゴール	  				

【DO（実施）】

後期基本計画（令和3年度～令和7年度）における数値目標

指標名	単位	基準値 (R1)	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R4年度	
			R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	達成率	進捗率
① 休日・夜間における外来患者数 (休日当番医、夜間初期診療センターの年間受診者数)	人/年	10,114	10,300 5,334	10,350 7,690	10,400	10,450	10,500	74.3%	73.2%
② 市民病院の病床稼働率	%	90.0	90.0 83.0	90.0 80.9	90.0	90.0	90.0	89.9%	89.9%
③									
④									
⑤									

施策達成状況の説明

① 休日当番医の受診状況はコロナ禍前とほぼ同じ数に回復しているが、夜間初期診療センターの受診者数はコロナ禍前の半分以下の状態が続いている。夜間初期診療センターではインフルエンザ検査及びコロナ検査を行っていないため、休日当番医での検査数が増加しているとも考えられるが、令和3年度の休日当番医の受診者数は少ないため、コロナ検査以外の受診者数も増えていると思われる。
 ② 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う受診控えにより、入院患者数に影響があったため目標値を下回った。

施策経費

(単位:千円)		R4年度 決算	R5年度 予算	R6年度 見込	特記事項
内訳	事業費	862,022	891,977	854,739	
	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	580	580	580	
	地方債	0	0	0	
	その他	139,559	149,508	158,967	
	一般財源	721,883	741,889	695,192	
	人件費	14,899	20,649	—	
フルコスト	876,921	912,626	—		

施策の概要（細施策）

050301	安心して受診できる体制づくり	休日や夜間に市民が安心して医療機関を受診できるよう、大村市夜間初期診療センター、民間医療機関、市立大村市民病院及び国立病院機構長崎医療センターとの連携を図ります。 また、日頃から安心して受診できる身近な「かかりつけ医」の普及促進に努めます。
050302	市民病院の機能充実	地域医療の中核病院として、安定した経営基盤のもと医療サービスの向上を図ります。 また、診療所等からの患者の紹介や逆紹介など、患者が適切な医療を受けられるよう、市内をはじめとする他の医療機関との連携を強化します。 さらに、患者の症状やニーズに応じて、地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病床の入院状況を調整するベッドコントロールや、リハビリテーションの充実など、医療機能の充実を図ります。

【CHECK (評価) 施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題

休日当番医の受診状況はコロナ禍前とほぼ同じ人数に回復。夜間初期診療センターについては、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えのため大きく減少した令和2年度とほぼ同等の人数だった。受診が必要な人の受診が阻害されないよう引き続き、周知に努める必要がある。
市立大村市民病院については、引き続き2次医療機関として地域医療の中核を担う必要があることから、医師の確保と経営の安定に努めていく必要がある

【ACTION (改善・改革)】

上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方

夜間初期診療センターの受診者数はコロナ禍以前に回復していないが、初期救急としての適正な受診を確保するため引き続き周知に努め、二次～三次救急との連携を確保していく。

令和6年度新規事業

	事業名	担当課	令和6年度見込	対象・事業概要など
			事業費(千円)	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	